

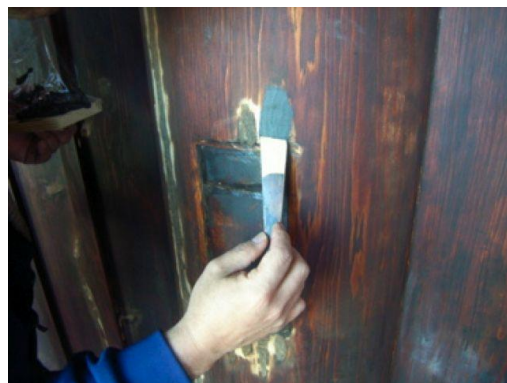
彩色・彫刻関係

沖縄総合事務局

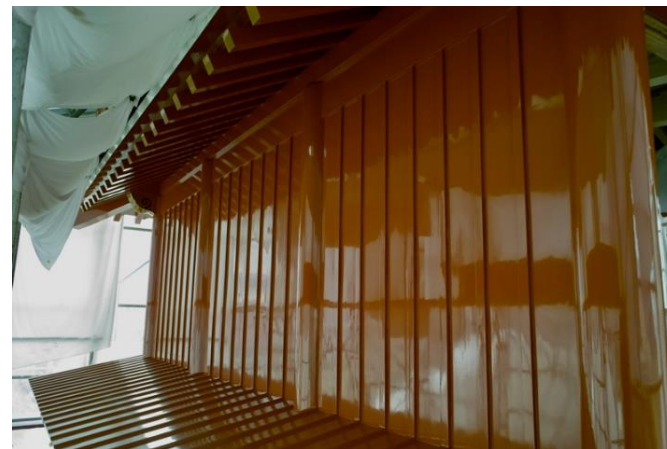
- 前回復元後に確認された新たな知見への対応について、復元後の補修実績、古文書や古写真、発掘調査報告等の資料をもとに、詳細な検証を進めているところ。今後、検証結果をもとに、仕様等について検討を進めていく。
- その他の彩色・彫刻について、材料調査を実施するとともに、必要に応じて石膏模型・下絵の製作を行い、仕様や手法等の検討を進めていく。

【漆塗装関係】

前回復元後に実施された補修時（H18～H22年度、H28～H30年度）や他の復元建物に用いられた久志弁柄等の施工実績を踏まえて、今回実施する施工方法を検討。



正殿の補修時（H18～H22年度）に、引込地材に新たに二ービ層（砂岩層）の土を使用
（左：調合の様子、右：補修作業の様子）



淑順門（H22年4月供用）の上塗りに久志弁柄を使用

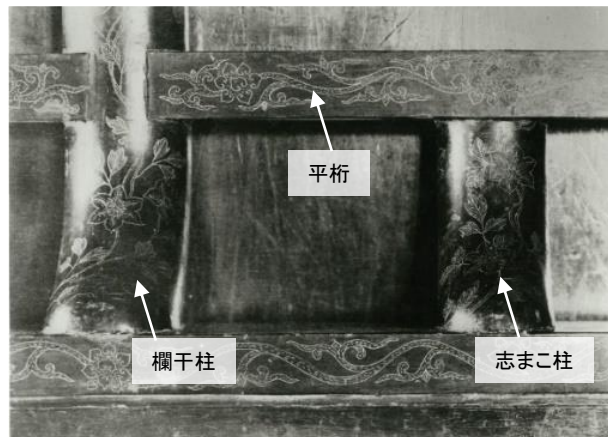
【二階御差床】

前回復元後に発見された古写真から推定される高欄の仕様(志まこ柱・欄干柱の形状、平桁の文様)について、模型等を用いた詳細な検証を行い、仕様を検討。

ひらげた



正殿二階御差床の高欄 (※囲み部分)



二階御差床の高欄 (一部) と想定される古写真
(沖縄県立芸術大学所蔵)

<新たな知見>

・欄干柱・志まこ柱
→形状が「沓形(くつがた)」とみられる
(前回復元時は、楕円形)

・平桁
→沈金文様が「忍冬唐草文」とみられる
(前回復元時は、鉄線唐草文)

たれかざり ようらく

【垂飾(瓔珞)】

前回復元後に取りまとめられた、正殿遺構から出土した玉類に関する発掘調査報告等をもとに、垂飾に用いる珠玉の材質や色、形状等の仕様を検討。

たまるい

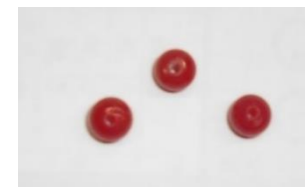
しゅぎょく



正殿一階御差床の垂飾(瓔珞) (※囲み部分)



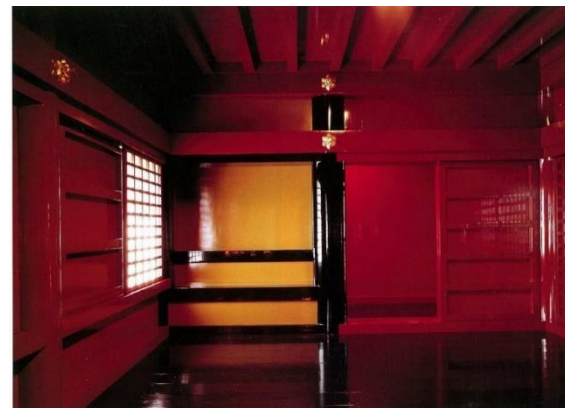
垂飾(瓔珞) (拡大)



前回復元時に使用したガラス玉(直径7mm)

【桐油黄塗り】

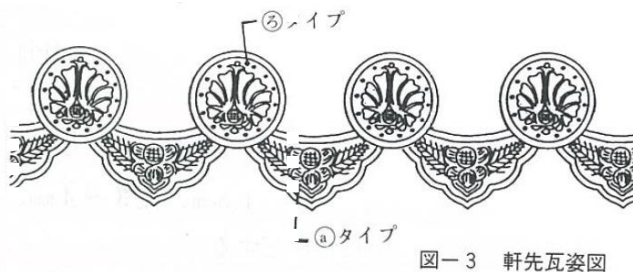
古文書や類似事例(漆器や古建築等)をもとに往時の塗装方法を検証し、
正殿二階の「おせんみこちゃ」御床等に施す桐油黄塗りについて、今回の仕様を検討。



正殿二階の「おせんみこちゃ」御床

【瓦当文様】

古写真や発掘調査報告、類似事例をもとに、瓦の仕様の変遷を改めて確認し、瓦当文様を検討。



前回復元時の瓦当文様



首里城正殿から出土した瓦
(左：軒丸瓦／㉓タイプ、右：軒平瓦／aタイプ)

【畳敷き】

古文書をもとに、往時の首里城での畳の使われ方や仕様等を検証し、今回の復元における畳敷きの取扱いを検討。